

かんまき 第66号

社協だより 2019.4



災害ボランティアセンター設置運営訓練

写真は3月3日(土)に開催された「社会福祉協議会 災害時対応訓練」の様子です。災害ボランティアセンターに到着したボランティアが受付にて活動登録をしている場面(左下)、中央は登録を終えたボランティアが活動先の紹介(マッチング)を受けているところです。

近年は毎年のように大きな災害が発生しており、各地で災害ボランティアセンターが開設されボランティアによる支援が行われています。(2面に続きます。)

目次

災害時対応訓練	・・・1、2
活動紹介のページ	・・・3
おしゃべり塾	・・・4
お知らせ(ご寄附の報告等)	・・・4

発行：社会福祉法人 上牧町社会福祉協議会
住所：上牧町上牧3245-1
TEL：0745-76-6098
FAX：0745-79-0895
URL：http://kamishakyo.web.fc2.com/

一人で悩まず語り合おう

上牧町手をつなぐ育成会主催で平成30年度のおしゃべり塾が開催されました。障害のある子どもを持つ親は、普段子どもと向き合う中で、さまざまな「ライフステージ」において、いろいろな課題や悩みが直面することがあります。おしゃべり塾は、そのような親の課題や悩みを一人で抱え込むのではなく、みんなで語り合い共有することを目的に開催しています。



7回目を迎えた今年度は、8市町村から23名(上牧町からは13名が参加)もの参加を得て成人、学齢の二つのグループに分かれて話し合いが行われました。参加した親からは、先輩ママの体験談を聞いて将来についての漠然とした不安が軽くなったとの意見が多くありました。

また、同日は身体障害者福祉協会と社会福祉協議会で障害のある人の交流会として軽スポーツ大会も実施しました。

学校や通所施設など普段は別々の場所で過ごしている人たちが新たな友達関係を作り、人間関係を広げるいい交流の機会になりました。

寄附のご報告

(平成30年12月1日～平成31年2月28日)

上牧町社会福祉協議会では、地域福祉推進のためご寄附をお願いしています。皆様からいただきました寄附金は上牧町の地域福祉事業に活用させていただきます。たくさんのご寄附をいただき、ありがとうございます。(敬称略・順不同)

氏名(団体)	種別	金額
松里園松寿クラブ	一円募金	9,898円
友が丘友愛会		4,164円
明朗会		1,025円
寿会		4,803円
千寿会		659円
匿名	寄附	600円
癒しのアロマヨガの会		4,500円

・かんまきタウンカレッジ(平成31年度上半期)のご案内は別紙チラシをご覧ください。
 ・今年も5月26日に社協まつりを開催します。詳細は来月のチラシをご確認ください。
 ※個別の事業報告は社協のホームページにも掲載しています。

予期せぬ災害や万一の事故の際に
 身近で頼りになる代理店をめざして

笑顔になる 保険選び

有限会社 工ナミ総合保険 保険代理店
 東京海上日動火災保険株式会社
 東京海上日動あんしん生命保険株式会社
☎0745-73-8189 工ナミ保険 検索

広告

小地域ネットワーク活動紹介

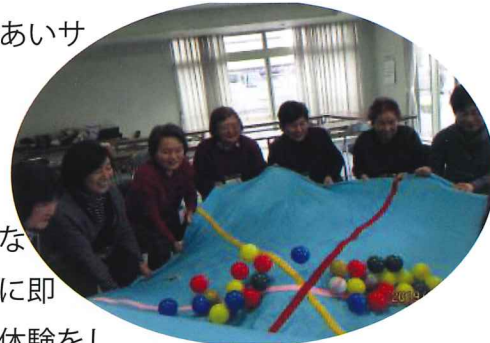


ふれあいサロン ～室内ゲーム～

滝川台ネットワークより

2月14日（木）バレンタインデーの日に滝川台ネットワーク主催のふれあいサロンが行われました。

滝川台ネットワークでは地域住民が交流できるようほぼ月1回ふれあいサロンが行われています。



今回は講師を招き、頭と身体がリフレッシュできる健康に繋がる内容でした。懐かしい童謡を歌いながらお手玉を隣の方に渡していく簡単なゲームで、講師の合図で反対回しにするのですがそんな簡単な事なのに脳がパニックを起こし上手にできなくなったりします。そのように即座に対応できないことを参加者が経験し、これが認知症なのだと思体験をしました。

また、認知症がけして怖いものではなく日頃の予防で現状維持や緩やかに進行へと導かれると知り

ました。そして、なにより日頃の驚きや感動、ときめきが脳の栄養になるのだと気づかされました。その後、軽スポーツ（輪投げやミニグランドゴルフ）

が行われておぜんざいが振る舞われ会話の弾むサロンとなりました。

やはり、1人で自宅に籠もっていてもどうしても刺激の薄いものになっていきます。滝川台の住民の方はネットワークの催しに参加して脳を活性化

しましょう。滝川台ネットワークではサロンの他「手作りの会」等も行われていますので住民のみなさんどうぞ覗いてみてください。



ボランティア活動紹介



～町V連 視察研修～

平成31年3月12日、上牧町ボランティア連絡協議会（以下町V連）の会員同士の交流と福祉サービスの勉強会を兼ねて研修会を開催いたしました。町V連会員15名で社会福祉法人青葉仁会へ施設見学に行きました。

ここでは、障害を持つ方が閉ざされた空間でなく、地域で孤立せず自分らしく生活ができるようなサービスが提供されています。自分に合ったペースで楽しく取り組める生産活動や、自信を持ってやりがいを感じられる仕事の間などたくさんの事業所がありました。

施設に到着し、職員の方から施設のコンセプトである「人と自然に優しいものづくり」についてお話を聞かせていただき、仕事場である水間ワークスの現場を見学させていただきました。みなさん笑顔で働かれ、素敵な創作品や自然素材のお菓子などを販売されていました。昼食は青葉仁会のカフェ・レストラン「ハーブクラブ」で地元食材を使った心温まる料理を堪能しました。昼食後は日笠ワークスへ移動し、仕事場と生活の間である入所施設を見学させていただきました。紙すき作業やカフェを経営されておりみなさん協力し合ながら充実した活動をされていました。

青葉仁会ではたくさんの作業場や生活の間であるグループホームもあり、全て見学はできませんでしたが、障害を持つ方が地域でいきいきとした暮らしを送れるよう支援できる仕組みを学ばせていただきました。



今回の訓練には、小地域ネットワークやボランティア、民生児童委員、自治会等関係機関・団体より多数のご協力をいただき、参加定員100名を大幅に上回る約170名での共同訓練となりました。

訓練前半には、阪南市社会福祉協議会事務局次長の猪俣健一氏から、昨年9月の台風21号災害において阪南市災害ボランティアセンター（以下、「災害VC」）のセンター長として支援に関わった経験や、中央共同募金会の災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の運営支援者として様々な地域で災害支援活動に従事した経験を実践報告としてお話いただきました。一言で災害VCと言っても災害の種類や規模の大小などにより活動の形態も様々で、それぞれの地域にあった活動を展開していくことが大切だとして、1日に1000人以上のボランティアを受け入れた常総市や被災して仕事をなくした高齢者にボランティアの送迎を担ってもらった気仙沼市の事例などを交えながら、分かり易く災害VCの取り組みについて紹介していただきました。



特に昨年の阪南市の事例では、災害VCのスタッフが20名程度必要な中、社会福祉協議会（以下、「社協」）には10名程の職員しかおらず職員だけでは運営を担えないので他市町村の社協からの応援や

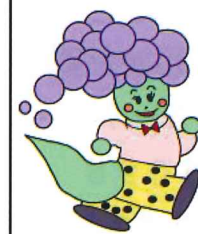


地元住民の協力を得ながら運営したお話が印象的でした。この様な実践を踏まえて、訓練では社協の職員だけがノウハウを習得すればいいのではなく、地域の皆さんと一緒に地域作りの一環として災害VCの運営について学び合うことが大切とのことでした。

その後、訓練2日前に上牧町が震度6弱の地震に見舞われたとの想定で、参加者それぞれが被災住民、民生委員、自治会長、ボランティア、災害VCスタッフの役に扮して、開設初日の災害VCの運営についてシミュレーションを行いました。

～参加者の声～

- ・どの方も積極的に参加され、団結があり、仕事ははかどりました。特にリーダーの方がしっかりされていたため、何事もスムーズに行えたように思います。訓練を通して、ボランティアとしての動きが少しわかったような気がします。
- ・災害を想定してのこのような訓練は必ずや実践に生きてくると思え、今後も参加したり、実際の現場でお手伝い出来ればとの思いが強くなりました。



災害ボランティアセンターとは、大規模な災害が発生した時、被災により生じた住民の困りごとと町内外から駆けつけたボランティアの支援を繋げることで住民の生活復興をお手伝いする仕組みです。被災した市町村において社会福祉協議会が関係機関と共に設置、運営します。上牧町では、今回の訓練会場となった2000年会館のゲートボール場に開設することになっています。

